

外陰癌登録実施要項 2016～

個別報告入力要領

治療患者の登録と報告は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 外陰に原発した浸潤癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。治療開始日は、外陰癌治療を開始した年月日とする。外陰部には恥丘・陰核・大陰唇・小陰唇・大前庭腺・腔前庭が含まれる。

(2) 診断のみ行い治療を行わなかった症例、診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告より除外する。

(3) 初回治療として手術がなされなかった症例（放射線や化学療法など）の進行期は、MRI、CTなどの画像診断で新進行期分類を用いて推定する。

(4) 悪性黒色腫、パジェット病は独自の進行期分類があるため、今回の外陰癌の登録からは除外する。

(5) T、N、M判定のための最低必要な臨床的な検索および画像診断が行われていない場合にはTX, NX, MXの記号で示す。

(6) 手術前に他の治療が行われている例では、y記号を付けて区別する。pT, pN, pM分類については、TNM分類に準じ、病理学的pTNMが用いられる。

例：ypT2N1bM0

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（VU20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【手術状況】

code No

1	手術施行例
2	手術未施行例
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICCの進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類(FIGO、TNM)は画像診断を用い、進行期を推定して登録、備考1欄にypTNMとして手術所見に即してpTNM分類を入力する。

【進行期分類】

1. FIGO分類（日産婦2014、FIGO2008）

code No

10	I 期（亜分類不明）
11	I A 期
12	I B 期
20	II 期
30	III 期（亜分類不明）
31	III A 期
32	III B 期
33	III C 期
40	IV 期（亜分類不明）
41	IV A 期
42	IV B 期

(注1) 浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする。

2. TNM分類（UICC第7版）

1) T分類

code No

99	TX
00	T0
01	Tis
10	T1（亜分類不明）
11	T1a
12	T1b
20	T2
30	T3

(1) Tisは上皮内癌であるが、2008年FIGO進行期分類の改定により、Tisに該当する症例は進行期分類から削除されている。

(2) T0とTXを混同しないこと。

T0：臨床所見より外陰癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に外陰癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

2) N分類

code No

NX	所属リンパ節転移の評価が不可能
N0	所属リンパ節転移なし
N1a	5mm未満のリンパ節転移が1～2個
N1b	5mm以上のリンパ節転移が1個
N2a	5mm未満のリンパ節転移が3個以上
N2b	5mm以上のリンパ節転移が2個以上
N2c	被膜外浸潤を有するリンパ節
N3	固着性または潰瘍性の所属リンパ節転移

外陰癌登録実施要項 2016～

(注1) 所属リンパ節は鼠径リンパ節である。鼠径リンパ節は浅鼠径リンパ節と深鼠径リンパ節に分けられる(日本癌治療学会リンパ節規約、2002年)。

(注2) リンパ節郭清の未施行例では、触診、視診、画像診断を参考にして転移の有無を判断する。

(注3) 5mmは転移巣の大きさであり、リンパ節の大きさではない。

3) M分類

code No

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり
MX	遠隔転移を判定するための最低必要な検索が行われなかった

3. 組織診断

1) 組織型

code No

10	扁平上皮癌
20	腺癌
30	腺扁平上皮癌
90	その他
99	不明

【治療開始年月日】

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

【治療法】

code No

10	手術
20	化学療法
30	放射線療法
40	同時化学放射線療法
99	その他の治療

(1) いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記5つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

(2) 手術には、根治的部分切除術、単純外陰切除、リンパ組織もあわせて切除する広汎外陰切除術などがあるがすべて手術として記載する。

(3) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(4) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療法として入力しない。

【備考1】

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合にはypTNMとして手術時所見に即してpTNM分類を入力する。

【備考2】

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存(非担癌)
11	生存(担癌)
21	外陰癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

(1) 治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

(2) 癌による死亡で「外陰癌による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「外陰癌による死亡」とする。

(3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「外陰癌による死亡」とする(「死因不明」としない)。

【最終生存確認年月日】

code No

1	(西暦年月日入力)
2	不明

(1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。

(2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する(退院後行方不明の場合は退院日となる)。

(3) 死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。

外陰癌登録実施要項 2016～

進行期分類

1. FIGO進行期分類（日産婦2011、FIGO2008）

I 期	外陰に限局した腫瘍
I A期	外陰または会陰に限局した最大径2cm以下の腫瘍で、間質浸潤の深さが1mm以下のもの ¹ 、リンパ節転移はない
I B期	外陰または会陰に限局した腫瘍で、最大径2cmをこえるかまたは間質浸潤の深さが1mmをこえるもの ¹ 、外陰、会陰部に限局しておりリンパ節転移はない
II 期	隣接した会陰部組織（尿道下部1/3、膣下部1/3、肛門）への浸潤のあるもの、リンパ節転移はない、腫瘍の大きさは問わない
III 期	隣接した会陰部組織への浸潤はないか、あっても尿道下部1/3、膣下部1/3、肛門までであるもので、鼠径リンパ節に転移のあるもの、腫瘍の大きさは問わない
III A期	(i) 5mm以上のサイズ ² のリンパ節転移が1個あるもの、または (ii) 5mm未満のサイズ ² のリンパ節転移が1～2個あるもの
III B期	(i) 5mm以上のサイズ ² のリンパ節転移が2個以上あるもの、または (ii) 5mm未満のサイズ ² のリンパ節転移が3個以上あるもの
III C期	被膜外浸潤を有するリンパ節転移
IV 期	腫瘍が会陰部組織（尿道上部2/3、膣上部2/3）まで浸潤するか、遠隔転移のあるもの
IV A期	腫瘍が次のいずれかに浸潤するもの (i) 上部尿道および/または膣粘膜、膀胱粘膜、直腸粘膜、骨盤骨固着浸潤のあるもの (ii) 固着あるいは潰瘍を伴う鼠径リンパ節
IV B期	遠隔臓器に転移のあるもの（骨盤リンパ節を含む）

（注1）浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする。

（注2）転移巣の大きさであり、リンパ節の大きさではない。

（1）0期はFIGO分類から削除された。

2. TNM分類（UICC第7版）

1) T—原発腫瘍

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内癌（浸潤前癌）
T1	外陰、または外陰と会陰に限局する腫瘍
T1a	最大径2cm以下の腫瘍で間質浸潤1.0mm以下 ¹
T1b	最大径2cmをこえる腫瘍か、あるいは間質浸潤が1.0mmをこえる ¹
T2	大きさに関係なく尿道の下部3分の1、膣の下部3分の1 ¹ 、肛門など隣接した会陰部組織に進展する腫瘍
T3 ²	大きさに関係なく尿道の上部3分の2、膣の上部3分の2、膀胱粘膜、直腸粘膜に進展する、または骨盤骨に固着する腫瘍

（注1）浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする。

（1）FIGOではT3は使用せずIV期としている。

2) N—所属リンパ節

NX	所属リンパ節転移の評価が不可能
N0	所属リンパ節転移なし
N1	以下の特徴をもつ所属リンパ節転移
N1a	1個5mm未満のリンパ節転移が1～2個
N1b	5mm以上のリンパ節転移が1個
N2	以下の特徴をもつ所属リンパ節転移
N2a	5mm未満のリンパ節転移が3個以上
N2b	5mm以上のリンパ節転移が2個以上
N2c	被膜外浸潤を呈するリンパ節転移
N3	固着性または潰瘍性の所属リンパ節転移

3) M—遠隔転移

MX	遠隔転移の評価が不可能
M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり（骨盤リンパ節転移を含む）

< FIGO分類とTNM分類の対比表 >

	N0	N1a N1b	N2a N2b	N2c	N3
Tis	0				
T1	I	III A	III B	III C	IV A
T1a	I A	III A	III B	III C	IV A
T1b	I B	III A	III B	III C	IV A
T2	II	III A	III B	III C	IV A
T3	IV A	IV A	IV A	IV A	IV A
M1	IV B	IV B	IV B	IV B	IV B